

JAPAN LACROSSE
WOMEN'S NATIONAL TEAM
OFFICIAL TEAM GUIDE 2022



JAPAN

Japan Lacrosse Women's National Team

2022年 ラクロス女子日本代表

Head Coach Interview

「2022年ラクロス女子日本代表
ゼネラルマネージャー兼ヘッドコーチ」

柴田 陽子
Yoko Shibata

JAPAN
LACROSSE

2022年女子日本代表のゼネラルマネージャー兼ヘッドコーチを務めております、柴田陽子です。
2020年に私がこのチームの指揮を執り始めて以来ずっと、この日本代表チームはコロナ禍とともに歩んできました。2020年と2021年は、対面での活動ができなかった期間も多く、今までとは違うオンラインでの週1ミーティングを重ねる日々も長く続きました。当初、2021年に予定されていた世界大会も1年延期となり、2019年11月を最後に、通常は定期的にある海外遠征に行くこともなく、国内活動だけで5年ぶりの世界大会に挑みます。

それでも、このコロナと戦争に翻弄されるいまの世界情勢の中で、日の丸を背負って世界の舞台で戦えることに、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に多くの方に支えていただき、我々は世界大会に行くことができます。この状況だからこそ起こった一つひとつの困難な出来事を通して、多くの人に支えられて成り立っているこの活動の重さと尊さを今まで以上に感じました。日本代表の活動を支えていたのを全ての方に、この場をお借りして深く御礼を申し上げます。

そして、度重なる活動の中断や制限を乗り越えて前を向き続けた選手と、何変も変わる状況の中で常に一緒に打ち手を考えてくれたスタッフを本当に誇りに思っています。このチームを一緒に作ってくれたことがとても光栄です。

先に述べたように、例年とは異なるコロナ禍の活動であることを踏まえて、特にチームとして大切にしていたことが2つあります。

1つ目は、逆境を跳ね返せる集団になることです。逆境を成長のチャンスと捉えて跳ね返す力のことを心理学用語ではレジリエンスと言いますが、日本代表ではこのレジリエンスをとても大切にしています。レジリエンス心理学では、人は問題に直面したときに3つのタイプ（Outerへ逃げる人、Copeへ何もしない人、Innerへ解決しようとする人）の行動に分かれると言われていま

す。日本代表では、どのような逆境に直面しても常に成長して山を乗り越えられる集団であることを目指し、Copelessをチームのスローガンに掲げています。

2つ目は、主体性です。コロナとともに歩むことは、いつ誰が練習に参加できなくてもおかしくない状況で活動することを意味しました。無論、大会期間中もいつ誰がチームを離れることになるかわかりません。そのため、私自身をはじめ、チームの誰が抜けても、残されたメンバーが歩みを止めることなく進み続けられるよう、選手の主体性を重んじてきました。

レジリエンスと主体性に注力してきたこのチームの真価が問われるのは、世界大会で苦しくなった試合においてだと思っています。そういった試合で、いかに展開が苦しくなってもそれを跳ね返して前を向き続けられるか。いかに選手一人ひとりが、指示を待つことなく主体的にとるべき行動を考えて行動できるか。そういった場面でこそ、日本代表の進化を皆さんに感じていただけた戦いをしたいと思っています。

最後に、私は2009年の世界大会で選手として戦いました。2009年は日本が唯一、20年間変わらぬ女子ラクロス界の4強（アメリカ、カナダ、イングランド、オーストラリア）とともに1部リーグで戦った大会です。そのときに、世界の4強と戦って感じたワクワク感と楽しさ、そして圧倒的な力の差への絶望感と悔しさ、13年経った今も私が日本代表に関わり続ける原動力です。2022日本代表が掲げている「4強を脅す5位」という目標には、その数字目標以上に、先輩たちから受け継いだ4強入りへの想いと、日本初のメダル獲得に向けて未来へ繋ぎたい想いが込められています。体格や経験で勝る相手に対しても日本のラクロスを買、世界で堂々と戦うので、日本の多くのラクロスコミュニティの方々にも勇気や笑顔を届けたいです。ラクロスを日本代表の5年ぶりの世界への挑戦、最後まで応援よろしくお願いします。

目次

- 1 ヘッドコーチ挨拶
- 2 主将挨拶
- 3 選手が解説！日本代表のTOP10キーワード
- 4 MEET THE TEAM
- 12 数字で知る日本代表
- 14 選手の見どころ
- 17 これまでの歩み
- 18 世界大会情報
- 20 世界大会2022 日本の戦い
- 22 OFF SHOT GALLERY
- 24 編集後記

JAPAN

MF #10 藤井 真由

Mayu Fujii
160cm/53kg
日本体育大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S1 [フィールドネーム]るか
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]1on1
[コメント]この大会に向けて、チームとしても個人としても勝つための準備を沢山してきました。このチームの一員として日の丸を背負って戦うことのできる嬉しさを存分に噛み締めて、最後の1秒まで全力で戦えます！応援よろしくお祈いします！！

MF #19 亀井 果奈

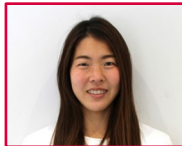
Kana Kamei
161cm/53kg
立教大学出身/MISTRAL所属



[学年(年次)]S6 [フィールドネーム]こう
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]カット
[コメント]このようなが時世で大会自体も1年延期された中、たくさんの方の支えがあり代表活動が続けていくことができました。感謝の気持ちを胸に、また今日までやってきたことに誇りを持ち、大舞台を楽しみたいと思います！そして日本に最高の結果を！応援よろしくお祈いします！

MF #15 細梅 志保美

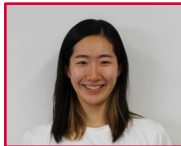
Shihomi Hosoume
157cm/52kg
明治大学出身/FUSION所属



[学年(年次)]S6 [フィールドネーム]もぐ
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]カットイン
[コメント]15年ぶりの世界大会にワクワクしています！これからの日本のラクロスにつながるような歴史的な2022 world championshipになるよう全力で戦えます！多くの人に世界のラクロスも、日本のラクロスも楽しんでもらえたら嬉しいです！応援よろしくお祈いします！

MF #6 小林 千沙

Chisa Kobayashi
171cm/64kg
日本体育大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S2 [フィールドネーム]ふぁい
[出身スポーツ]硬式テニス、陸上競技(800m)、バスケットボール、野球
[得意なプレイ]プレイク・高い位置からの1on1
[コメント]これまで支えてくださった家族、友人、チームメイトの方ありがとうございます。初めてのW杯出場ですが、支えてくださった方々の代表として全力でプレーしていきます！応援よろしくお祈い致します！

MF #18 水野 果奈子

Kanako Mizuno
159cm/50kg
筑波大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S9 [フィールドネーム]かこ
[出身スポーツ]サッカー、バスケットボール [得意なプレイ]カット、グラブ
[コメント]活動を支えてくださる皆様、いつもありがとうございます。チームで準備してきたことの中でも特に、攻守の切り替えとダウンボールへの寄りこにこだわり、勝利に貢献できるよう頑張ります。応援よろしくお祈いします。

MF #2 鈴木 理沙

Risa Suzuki
163cm/57kg
明治大学出身/MISTRAL所属



[学年(年次)]S7 [フィールドネーム]ばなっ
[出身スポーツ]バレーボール、陸上 [得意なプレイ]上からの1on1
[コメント] 2017年の大会から5年間、この世界大会に向けて日々準備してきました。たくさんの方に支えていただき、応援していただいたから乗り越えられた5年間でした。必ず結果で恩返しをしたいと思います。一緒に戦っていただけると幸いです。

MF #21 菅谷 美玖

Miku Sugaya
168cm/70kg
成蹊大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S3 [フィールドネーム]みく
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]フィジカルを活かしたパワープレー
[コメント]私自身、初の世界大会、とても楽しみです。たくさんチャレンジし、応援してくださる方々に見ていて男子や感動を与えられるよう精一戦戦います！応援よろしくお祈いします！

MF #12 高野 ひかり

Hikari Tanaka
161cm/57kg
横浜国立大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S9 [フィールドネーム]ひかり
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]ドロー周り、切り替えのほやき
[コメント]このチームで日本を代表して世界と戦えることにとてもワクワクしています！今の日本と自分が世界でどれだけ戦えるのか、しっかりと体感するとともに、目指す勝利を必ず得てきます！応援よろしくお祈いいたします！

MEET THE TEAM

2022年ラクロス女子日本代表 選手・スタッフリスト

※2022年6月3日現在

AT #5 多賀 麻文

Maaya Taga
163cm/57kg
明治大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S7 [フィールドネーム]ぼんど
[出身スポーツ]水球 [得意なプレイ]ゴール前シュート
[コメント]いつもたくさんの方の応援ありがとうございます。これまで個人でもチームでもたくさん準備してきました。それがどれだけ通用するの、試合をするのが楽しみです！応援よろしくお祈いいたします！！

代表選手18名



AT #7 高橋 実緒

Mio Takahashi
171cm/66kg
日本体育大学出身/FUSION所属



[学年(年次)]S6 [フィールドネーム]いせ
[出身スポーツ]バスケットボール、ハンドボール [得意なプレイ]シュート、パスキャッチ
[コメント]日本代表を応援してくださっている皆様ありがとうございます。2022世界大会では目標としている5位以内を達成するために1試合1試合全力で戦いたいと思います。引き続き応援よろしくお祈い致します！

AT #17 櫻井 美帆

Miho Sakurai
162cm/55kg
立教大学出身/MISTRAL所属



[学年(年次)]S2 [フィールドネーム]みほ
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]相手のミスを突くプレー、クイックネスを活かしたプレー
[コメント]皆さんのサポートがあって、今こうして世界大会に向けてプレーできています。日頃から、沢山のサポートをありがとうございます！皆さんへの感謝の気持ちをプレーで返せるよう、一戦一戦成長し、結果を残します！応援よろしくお祈いします！

AT #11 中澤 こころ

Kokoro Nakazawa
162cm/54kg
日本大学高等学校出身/University of Louisville所属



[学年(年次)]大学3年 [フィールドネーム]こころ
[出身スポーツ]ラクロス [得意なプレイ]1on1
[コメント]自分達の力を全て出し切り、チーム一丸となって頑張ります。応援宜しくお願い致します！

AT #16 ジョーンズ 萌仁香

Monica Jones
165cm/66kg
東京成徳大学高校出身/立教大学所属



[学年(年次)]大学4年 [フィールドネーム]もにか
[出身スポーツ]ラクロス [得意なプレイ]アシスト
[コメント]世界最高の場所でラクロスができることに感謝して、全力で楽しんでいます。応援宜しくお願いいたします。

AT 山根 萌奈

Mona Yamane
163cm/60kg
日本体育大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S1 [フィールドネーム]もな
[出身スポーツ]陸上競技 [得意なプレイ]左サイドのシュート
[コメント]日本を代表するメンバーと一緒にラグロスをできている事がとても嬉しいです！最高のメンバーとコーチとスタッフが揃っているのが最高の結果を見せられるように頑張ります。応援よろしくお願いします！

DF #22 亀田 亜梨沙

Arisa Kameda
168cm/61kg
明治大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S7 [フィールドネーム]へむ
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]対峙
[コメント]様々な方の支えがあって代表活動が成り立っているということ、日々感じています。世界大会で結果を出せるよう、日頃の感謝の気持ちを忘れずに、自分にできることを全力で、楽しみながら取り組みたいと思います！

G #3 藤田 瑠奈

Runa Fujita
167cm/62kg
玉川学園高等部出身
/慶應義塾大学所属



[学年(年次)]大学4年 [フィールドネーム]るな
[出身スポーツ]ソフトボール [得意なプレイ]DFと連携したセーブ
[コメント]初めての世界大会ですが、やれることを精一杯やります。僕としてくれる先輩たちのために、コーチのために、応援してくれる人たちのために頑張ります！！

DF #14 戸村 舞花

Maika Tomura
166cm/63kg
日本体育大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S1 [フィールドネーム]きゃん
[出身スポーツ]空手、バスケットボール [得意なプレイ]ピック時のダブルからの押し上げ
[コメント]いつも応援やサポートありがとうございます。大好きなこのチームで、目標を達成できるように精一杯頑張って戦ってきます。応援よろしくお願致します。

MF 春木 理沙

Risa Haruki
158cm/54kg
日本大学出身/FUSION所属



[学年(年次)]S3 [フィールドネーム]らい
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]on1、ドロー
[コメント]代表活動に関わってくださっている方々、応援して下さっている皆様に感謝の気持ちを結果で残せるよう、このチームの一員として、自分自身が成長する事を止めずに、クライマーズを体現し続けたいと思います！

G #1 大沢 かおり

Kaori Osawa
175cm/67kg
慶應義塾大学出身/MISTRAL所属



[学年(年次)]S4 [フィールドネーム]けい
[出身スポーツ]バスケットボール [得意なプレイ]フィールドプレー
[コメント]いつもたくさんの応援をいただきましてありがとうございます。Climbersらしく、どの立場でも高みを目指し高め合いながら、最後の瞬間まで頑張ります。引き続き応援の程よろしくお願致します！

補欠選手4名

DF #13 抜井 愛海

Narumi Nukui
163cm/65kg
東海大学出身/FUSION所属



[学年(年次)]S4 [フィールドネーム]しゃか
[出身スポーツ]野球、バレーボール [得意なプレイ]速攻の運び、ロングパス
[コメント]日頃よりチームのご支援、ご声援本当にありがとうございます。世界大会に向けてこれまで準備して来られたもの皆様ののおかげです。U19を含め3度目となる世界との戦いにとってもワクワクしています。いい結果を報告できるよう最高の仲間、最高のスタッフと共に戦ってきます！！引き続き応援よろしくお願致します！！

コーチ・スタッフ

練習生3名

AT #20 比嘉 さやか

Sayaka Higa
158cm/57kg
青山学院大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S1 [フィールドネーム]べに
[出身スポーツ]サッカー [得意なプレイ]アシスト
[コメント]私はこの代表活動を通して益々ラグロスが好きになりました！そして、こんなに素敵な仲間と一緒に練習できていることを本当に幸に思っています！応援してくださる皆さんにも日本のラグロスの面白さ、このチームの魅力が伝わったら嬉しいです！いつも応援ありがとうございます！

DF #9 廣瀬 藍

Ai Hirose
159cm/57kg
上智大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S7 [フィールドネーム]あい
[出身スポーツ]クラシックバレエ [得意なプレイ]on1DF
[コメント]いつも応援ありがとうございます！最高の結果を得るよう日本を代表して頑張ります。みなさんと一緒に闘っていただけたら嬉しいです！

HEAD COACH GENERAL MANAGER 柴田 陽子

Yoko Shibata
慶應義塾大学出身



[フィールドネーム]しゅん
[出身スポーツ]バスケットボール
[コメント]日本の皆さんに笑顔と勇気を与えられるような気持ちのこもった、世界に誇れる戦いをしたいと思っています。応援よろしくお願いします。

AT 鈴木 さくら

Sakura Suzuki
157cm/52kg
日本女子体育大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S1 [フィールドネーム]りと
[出身スポーツ]新体操 [得意なプレイ]on1
[コメント]コロナ禍で活動が出来ること、たくさんの方々のお力を借りて今の私たちがいると思います。たくさんの方々の想いを胸に、そして自分達がやってきた事を誇りに頑張りたいと思います。

DF #8 井上 綾花

Ayaka Inoue
159cm/53kg
青山学院大学出身/NeO所属



[学年(年次)]S4 [フィールドネーム]みや
[出身スポーツ]サッカー、野球、バレーボール [得意なプレイ]グラブ
[コメント]女子日本代表を応援して頂き、ありがとうございます。世界5位を取り、ラグロス界にとって記録と記憶に残るよう万全の準備をして臨みます。応援お願いいたします！

G #4 岩田 麻衣子

Maiko Iwata
159cm/58kg
東海大学出身/チーム無所属



[学年(年次)]S12 [フィールドネーム]まいこ
[出身スポーツ]ラグロス [得意なプレイ]セーブからの早いクリア
[コメント]いつも沢山のご支援ご声援ありがとうございます！何が起るかわからないのが世界大会。どんな状況もプラスに捉え、最高の結果でお返し出来るよう全力で戦ってきます。引き続き、応援宜しくお願い致します！

SUPPORT STAFF
松本 紗葉
Sayo Matsumoto

明治学院大学出身



[フィールドネーム]はたる
[出身スポーツ]なし
[コメント]選手、スタッフ、そして応援してくださる皆様のたくさんの想いが溜まっているこのチーム。半年前まではどこか遠く感じていた「代表」というチームが今や私にとっての誇れる大好きな居場所になりました。

SUPPORT STAFF
内野 昌憲
Masanori Uchino

東京理科大学出身



[フィールドネーム]うっちゃん
[出身スポーツ]ハンドボール
[コメント]今までに誰も見たことがない、日本だからこそ、今の日本代表だからこそできるラグロスを！！

TRAINER
佐々木 貴也
Takaya Sasaki

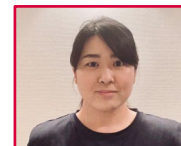
東海大学出身



[フィールドネーム]たかや
[出身スポーツ]野球
[コメント]女子代表をコーチさせてもらった感じたことは、とにかく伸び代だけだということ！守りに入らず、大会直前まで貪欲に攻めて自分を高めていきましょう！

ASSISTANT
GENERAL MANAGER
阿久津 直子
Naoko Akutsu

青山学院大学出身



[フィールドネーム]ぼん
[出身スポーツ]サッカー、バスケットボール
[コメント]日頃より活動を支えていただきありがとうございます。日本トップの選手・コーチ・スタッフの一人ひとりが、世界の舞台で、最大の力を発揮できるよう、精一杯サポートしていきます！応援をよろしくお願いします！

SUPPORT STAFF
志村 咲季
Saki Shimura

日本女子体育大学出身



[フィールドネーム]ぶる
[出身スポーツ]バスケットボール
[コメント]climbersというテーマのもと高め合いながら世界大会に向け進んでいるチームをより多くの方に伝えていき、応援してくださるファンの方々と一緒に結果を掴みに行けるよう頑張ります！

SUPPORT STAFF
東 結愛
Yume Azuma

日本大学所属



[フィールドネーム]るん
[出身スポーツ]バスケットボール
[コメント]今回、代表活動に参加させて頂き、貴重な経験を積むことができたことを本当に幸せに思います！大会に向けて、チームがベストな状態で大会に臨めるよう、残りの期間、自分にできることを全力で頑張ります。

TRAINER
宮崎 淳
Atsushi Miyazaki

東京医療専門学校出身



[フィールドネーム]あっちゃん
[出身スポーツ]ラグビー
[コメント]日本代表チームが毎試合でベストなパフォーマンスが出し尽くせるようサポートして参ります。CLIMBERSな日本代表チームの応援よろしくお願いします！

ASSISTANT COACH
石川 貴一
Takaichi Ishikawa

慶應義塾大学出身



[フィールドネーム]たかいち
[出身スポーツ]バスケットボール、野球
[コメント]『その1点』をいかに取るか、いかに守るか、という事に拘っていきます。全てを受け入れながら、ラグロスで学んできた事、経験した事を形で表す恩返し。応援よろしくお願いします！

SUPPORT STAFF
久松 佳穂
Kaho Hisamatsu

筑波大学出身



[フィールドネーム]もこ
[出身スポーツ]サッカー
[コメント]いつも応援いただきありがとうございます。たくさんの方の想いが詰まったこのチームを、より価値のあるものにするために自分ができることを精一杯頑張ります！

SUPPORT STAFF
池田 美椰海
Miyaka Ikeda

青山学院大学出身



[フィールドネーム]うみ
[出身スポーツ]バスケットボール、ソフトテニス
[コメント]去年は代表活動に携われるなんて思ってもいませんでした。そんな場所からスタートしたスタッフですが、日々チームの熱意や努力を肌で感じ全員のことを心から尊敬してまして、最後まで尽力します！応援をお願いします！

TRAINER
寺田 龍平
Ryohiei Terada

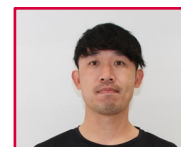
大東文化大学出身



[フィールドネーム]でら
[出身スポーツ]野球
[コメント]選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう最善のサポートをします！

ASSISTANT COACH
岩崎 功一郎
Koichiro Iwasaki

中部大学出身



[フィールドネーム]いわき
[出身スポーツ]野球
[コメント]世界の4強を脅かす5位以上という目標を目指してきたこの4年間。2018年の強化指定から含めると5年。過去にないことばかりを経験したチームの集大成です。ここまで女子代表に関わってくれた全ての方々に感謝し、本大会での結果で1番の恩返しをします！是非応援のほどよろしくお願いいたします！！

SUPPORT STAFF
服部 真帆
Maho Hattori

明治大学出身/FUSION所属



[フィールドネーム]まい
[出身スポーツ]なし
[コメント]代表活動という貴重な場に参加させていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。世界で戦う選手たちの、最高の準備の場となるような練習をサポートしていきたいと思っています。

MANAGER
水毛 結衣
Yui Mizumo

東洋大学出身



[フィールドネーム]ゆい
[出身スポーツ]バスケットボール
[コメント]日頃より代表活動に携わってくださっている皆さま、いつも本当にありがとうございます。様々な場面で支援してくださるたくさんの方々のおかげで活動ができています。選手たちが練習の成果を発揮して、たくさんの方々のワクワクをお届けできるよう、私も最後まで頑張ります！応援よろしくお願いします。

ASSISTANT COACH
宮沢 明日香
Asuka Miyazawa

慶應義塾大学出身



[フィールドネーム]あすか
[出身スポーツ]バスケットボール、テニス、野球
[コメント]いつも温かい応援、ご支援を頂き有難うございます。DFにおいては超運動DFで攻撃の起点の一つでも多く創出すること、相手の猛攻からゴールを守る事で、勝利に貢献します。そして、選手、コーチ、スタッフ丸くなって目標である4強を脅かす存在、5位以上獲得に向けて邁進して参りますので、応援宜しくお願い致します！



1 NCAAでプレイしている選手は**1名**
.....
こころ



2 世界大会が3大会目の選手は**2名**
.....
まいこ・ひかり

3 大学の時に3部リーグに所属していた選手は**3名**
.....
あい・らい・かなこ



4

結婚している選手は**4名**
.....
ばなっぶ・ふあい・こう・もぐ



※もな不在

5 2019年U19世界選手権出場選手は**5名**
.....
こころ・きん・もにか・るか・もな

最も多い出身大学は日本体育大学で**5名**
.....
もな・いせ・ふあい・るか・きん



数字で知る 日本代表

10 フィールドの最年少選手と最年長選手の年齢差は**10歳**
.....
ひかり (30歳) ・こころ (20歳) ・かなこ (30歳)



8 高校からラクロスをやっていた選手は**8名**
.....
きん・まいこ・しゃか・いせ
ぼんど・もにか・こころ・もな



9 前回大会 (2017年) の日本の順位は**9位**
.....

7

2017年世界大会出場選手は**7名**
.....
いせ・まいこ・あい・ばなっぶ・もぐ・しゃか・ひかり



※ひかり不在



6 大学時代主将・キャプテンを務めた選手は**6名**
.....
ばなっぶ・まいこ・しゃか・りと・かなこ・べに

選手の見どころ ～MF編～

水野 果奈子 (かなこ)



30歳で日本代表初招集の努力家。無尽蔵のスタミナ、グラボへの執着心、切り替えの早さ、そして仲間を活かすためのオフボールの動きに注目！

高野 ひかり (ひかり)



日本代表の司令塔。チーム一のラクロスIQの高さで攻守の要となり、ここぞという場面でのアシストと得点を量産。

亀井 果奈 (こう)



ゲーム展開を読むことに長けたオールラウンダー。相手の隙をつくカットインや切り替えからのフルフィールドオフフェンスでの得点演出に期待。

春木 理沙 (らい)



仲間も読めない鋭い角度でのキレキレのダッチが代名詞。日本トップレベルのドロークントロール力も魅力の選手。

藤井 真由 (るか)



高いポテンシャルと地道な努力が生んだ鋭い1on1からのランニングシュートやカットインの得点に期待。日本の次世代の中盤の要。

小林 千沙 (ふあい)



日本代表の絶対的ドロワー。ドロークントロールと1on1からのシュートで日本代表のオフフェンスを牽引。

細梅 志保美 (もぐ)



神出鬼没のカットインと安定したDFからブレイクを作り出す中盤の中心選手。チームトップレベルのスタミナで最初から最後まで駆け抜ける姿に注目！

鈴木 理沙 (ばなっふ)



チームの精神的支柱。勝負どころでの信頼感はチーム一。難しい局面でこそ実力を発揮する勝負強さが持ち味。

選手の見どころ ～AT編～

鈴木 さくら (りと)



日本のスピードスター。圧倒的な瞬発力とスピードで相手を置き去りにし、得点を量産。持ち前の明るさで日本代表の元気印！

高橋 実緒 (いせ)



どこからでも得点を狙える生粋のポイントゲッター。日本代表のレフティエース。

櫻井 美帆 (みほ)



サイド1on1&ライドの要。前線からの激しい守備でのボール奪取に期待！

山根 萌奈 (もな)



左手から繰り出されるシュート力はチーム随一。強烈なロングシュートとゴール前の細かいフェイクを持ち合わせる大型アタッカー。

中澤 こころ (こころ)



海を渡ってアメリカで戦う代表最年少アタッカー。NCAA仕込みの豊富な得点パターンが魅力。攻撃のオールラウンダー。

ジョーンズ 萌仁香 (もにか)



日本の若きクリース職人。ゴール裏からのフィードとカットインに注目！

比嘉 さやか (べに)



猪突猛進の突破力と独特なタイミングのフィード力、攻撃陣の中ではトップを争う守備力を兼ね備える個性派アタッカー。

多賀 麻文 (ぼんど)



日本代表・攻撃のブレイン。シュートから地味なオフボールの動きまで、細かいプレイへのこだわり度はチーム一。

これまでの歩み

2021 練習再開 12/25-26
追加招集メンバーが加わり、世界大会出発6か月前の週末に活動を再開

2022 1/8-9
本格的にチームの戦術練習を開始。初の紅白戦

1/22-23
絶対優位のある外国人との対戦を想定し、男子チームと試合を実施

2/5-6
チームビルディングにも注力し、その一環として全メンバーが自己紹介スピーチを行う

2/19-20
男子チームと2回目の試合。目標得点は達成したものの、一つひとつの精度に課題が残る

3/5-6
技術MTGと男性サポートスタッフによる個別指導でOF、DF各局面における技術が向上

3/19-21
三浦学苑高等学校のグラウンドを借り、世界大会の想定で3日連続試合を実施

4/2-3
フルフィールドオフェンスの練習に注力。再び男子チームとの試合を実施。

4/16-17
男子チームとの試合で初めて敗戦。大事な場面で1点を決めることができず、また、連続失点する場面もあり、まだまだ成長しなければならないと実感した試合だった

4/29-30, 5/3-5
世界大会での連戦を想定し、5日間実際の対戦相手を想定しての試合実施。
最終日には、三浦市による壮行会が開催された

5/14-15
2日間で計12時間以上の強化練習を実施。残す練習会は全て試合ということも踏まえて、試合中の様々な状況を想定し、すり合わせを行った

5/28-29
世界大会で最も厳しい戦いである最後の2戦を想定し、両日とも男子チームとの試合実施。サドンビクトリーやラスト5分のリード、ビハインド想定などの練習も行い、接戦を勝ち切るための強さを磨いた

6/11-12
国内最終活動。必勝祈願からの男子チームとの試合と協会主催の壮行試合

大会
初戦

5年ぶりの世界大会、ホーデノソーニーと対戦！

選手の見どころ ～DF&G編～

岩田 麻衣子 (まいこ)



復活した日本の守護神。世界を知り尽くした代表最年長選手。彼女を前にした敵は、蛇に睨まれたカエル。相手に打たせて取るセーブに注目！

廣瀬 藍 (あい)



日本No.1ディフェンダー！圧倒的なフットワークとポジショニングでDFの要を担い、日本を勝利に導く。

菅谷 美玖 (みく)



史上最強のフィジカルモンスター誕生！世界基準のフィジカルと鉄壁DFで世界の猛者達からボールを奪う。

藤田 瑠奈 (るな)



野生味溢れるビッグセーブを連発する大魔神。フィールドに響き渡るあのエンジェルヴォイスでDF陣のボール奪取を牽引。

井上 綾花 (みや)



低空飛行のグランドボールと、運動量抜群の粘り強いディフェンスで、日本の攻撃の起点を創り出す！

戸村 舞花 (きゃん)



日本の若きマルチディフェンダー。1on1、インター、GB、全てを器用にこなして攻撃の起点を創り出す！

大沢 かおり (けい)



世界基準を上回るビッグゴーリー。『水の呼吸・風』を発動して敵のシュートを摘み取って行く姿と無敵のフィールドプレーは必見！

亀田 亜梨沙 (へむ)



一度間合いに入ったら逃れられない！リーチの長さから繰り出されるインターや粘り強いディフェンスで、相手からボールを奪取。

抜井 愛海 (しゃか)



日本のベストディフェンダー！本能のままに繰り出されるチェックで相手ボールを叩き落とす。安定感のあるクリアや左手のパワーシュートにもご注目。

◆世界選手権大会の歴史

回	開催地	参加国 /地域	1位	2位	3位	日本の 順位
第1回 (1982年)	イギリス (ノッティンガム)	6	アメリカ	オーストラリア	カナダ	未参加
第2回 (1986年)	アメリカ (フィラデルフィア)	6	オーストラリア	アメリカ	スコットランド	未参加
第3回 (1989年)	オーストラリア (パース)	6	アメリカ	イングランド	オーストラリア	未参加
第4回 (1993年)	スコットランド (エジンバラ)	8	アメリカ	イングランド	オーストラリア	7位
第5回 (1997年)	日本 (東京)	7	アメリカ	オーストラリア	イングランド	7位
第6回 (2001年)	イングランド (ウィコム)	8	アメリカ	オーストラリア	イングランド	7位
第7回 (2005年)	アメリカ (アナポリス)	10	オーストラリア	アメリカ	イングランド	5位
第8回 (2009年)	チェコ (プラハ)	16	アメリカ	オーストラリア	カナダ	7位
第9回 (2013年)	カナダ (オシャワ)	19	アメリカ	カナダ	オーストラリア	9位
第10回 (2017年)	イングランド (ギルフォード)	25	アメリカ	カナダ	イングランド	9位

◆メダル獲得数ランキング

国/地域	金	銀	銅	計
アメリカ	8	2	0	10
オーストラリア	2	4	3	9
イングランド	0	2	4	6
カナダ	0	2	2	4
スコットランド	0	0	1	1



世界大会情報

【大会名】 2022 World Lacrosse Women's World Championship

【大会期間】 2022年6月29日 - 7月9日

【開催場所】 アメリカ メリーランド州 タウソン大学



大会公式HP



チケット購入ページ



大会公式Instagram



◆日本代表・対戦スケジュール

現地日時	日本日時	対戦国
6/30 14:00	7/1 3:00	ホーデノソーニー
7/1 15:00	7/2 4:00	アルゼンチン
7/2 9:00	7/2 22:00	中国
7/4 19:00	7/5 8:00	スイス
以下、予選ラウンドの結果により変動		
7/5 ~ 7/7	決勝トーナメント／下位トーナメント	
7/8	最終順位決定戦（7位決定戦以上は翌日）	
7/9	7位決定戦、5位決定戦、3位決定戦、決勝戦	

◆見どころ

①予選ラウンド最大のライバルはホーデノソーニー！

ホーデノソーニー連邦（別名イロコイ連邦）は、北アメリカのアメリカ合衆国ニューヨーク州オントリオ湖南岸とカナダにまたがった保留地を持つ、6つの先住民族により構成される部族国家集団。ラクロス発祥の場。今でもラクロス界ではその歴史を重んじて世界大会には一つの国家として参加している。

男子はトンプソン兄弟を筆頭に多くの超有名人選手を輩出しており、女子も今回はアメリカ開催ということもあり、過去カナダやアメリカ国籍でプレイしていたNCAAやプロリーグのトップ選手もホーデノソーニーで出場することが予想されている。

②日本の鬼門・ベスト16の戦い

過去2大会で日本の鬼門となっているのはベスト8に入るためのこの試合。ここで勝って、まずはベスト8トーナメントに進出することが重要。予選を1位通過すると、Pool Dの1位とあたるため、ニュージーランドまたはアイルランドとの対戦が予想される。ニュージーランドは2015年のU19で5位を懸けた最終戦を延長戦で負けた因縁の相手。一方アイルランドにはアメリカ代表のレジェンドKatrina Dowdが加わり、アイルランド移民が多いアメリカ開催とあり、アメリカ出身の選手が中心。2位通過の場合はPool A（1部リーグ）の5位とあたるのでスコットランドの可能性が高いと予想。

③ベスト8は世界の4強との初対決！

ベスト8では20年間変わっていない女子ラクロスの不動の世界4強（アメリカ、カナダ、イングランド、オーストラリア）のいずれかと初対決。ベスト16で勝利した場合、予選リーグ1位通過だと1部リーグの1位通過チーム（おそらくアメリカ）、2位通過だと1部リーグの4位通過チーム（おそらくイングランドかオーストラリア）との対戦。世界のトップレベルをどれだけ苦しめられるかに注目。

④本当の勝負はラスト2試合

日本が目指す史上最高順位タイの5位を達成するためには、最後の2試合を勝利する必要がある。ベスト8に敗れた場合、翌日に「5位進出決定戦」を控える。ここが最大一番となる。ベスト16であたらなかったいずれかのチームとあたる予想だが、ここから先はどことあってもギリギリの戦いが予想され、連戦の終盤、最も疲れている中で互いに技術、戦術だけでなく、体力、メンタルとの勝負になってくることが予想される。

※③のベスト8で勝てば日本初の準決勝進出。

5位進出決定戦に勝てば、1日オフを挟んで大会最終日に5位決定戦を戦う。5位進出決定戦で敗退した場合は、7位決定戦にまわる。過去の世界大会を見ても、最終日は最もドラマがある試合が待ち受けている。

※準決勝に進んだ場合は最終日の決勝または3位決定戦に進出。

世界大会2022 日本の戦い

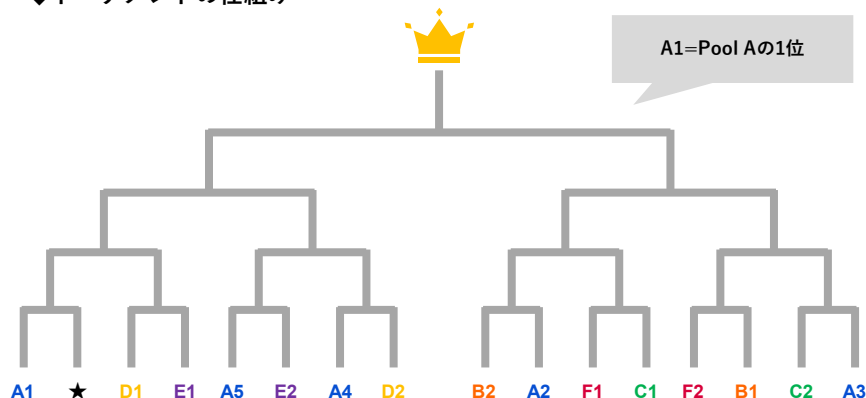
◆予選ラウンド

本大会には過去最多となる30か国が出場。予選は以下6ブロックにて行われる。Pool Aは強豪国が集まる1部リーグで5チームととも決勝トーナメントに進む。日本はPool Eで予選ラウンドを戦う。

Pool A	Pool B	Pool C	Pool D	Pool E	Pool F
アメリカ (1)	イスラエル (6)	ウェールズ (7)	ニュージーランド (8)	日本 (9)	チェコ (10)
カナダ (2)	韓国 (15)	ドイツ (14)	アイルランド (13)	ホーデノソーニー (12)	イタリア (11)
イングランド (3)	オランダ (16)	ラトビア (17)	香港 (18)	スイス (19)	メキシコ (20)
オーストラリア (4)	プエルトリコ (25)	ウガンダ (24)	スペイン (23)	中国 (22)	スウェーデン (21)
スコットランド (5)	ノルウェー (26)	ジャマイカ (27)	オーストリア (28)	アルゼンチン (29)	コロンビア (30)

※()内は前回大会の結果を元にした現ランキング

◆トーナメントの仕組み





編集後記

この度は、本誌をご覧いただきありがとうございます。

そして日頃よりたくさんのご支援、ご声援をありがとうございます。
皆様のお力添えのおかげで、日々、最高の環境で世界大会に向けた練習ができています。心から感謝いたします。

本誌を読んで、世界大会をより楽しんでいただければ幸いです。
今後ともラクロス女子日本代表をよろしくお願いいたします。

広報担当 久松佳穂



LENACOS は、ラクロス女子日本代表のブランドデザインパートナーです